

令和4年度 都城市立乙房小学校 学校関係者評価

4段階評価(4・・・期待を上回る(100～90%達成) 3・・・概ね達成(90～70%達成) 2・・・期待を下回る(70～50%達成) 1・・・改善を要する(50%以下) ※「-」は、調査していない項目 ()は昨年度

本校の教育的課題	評価指標 (児童の意識・姿・態度)	自己評価	保護者評価	児童評価	地域の評価	自己評価コメント(成果○と課題●)	学校関係者評価	学校関係者評価コメント(成果○と課題●)	次年度に向けた改善策
		総合	総合	総合	総合				
【か】学力の向上	主体的に学ぶ態度の育成	3.2 (3.0)	2.9 (2.9)	3.4 (3.5)	-	○ 児童の学習に対する意欲は「概ね達成」が9割以上と大変高い。保護者の回答も「概ね達成」以上は8割を超える。学習意欲の高さは学力向上につながるため、全職員で授業の工夫に取り組んでいく。 ○ 職員全員が研究授業を行ったり、授業に関する情報交換を行ったりして、授業改善に取り組んできた。これからも、児童が「分かる・できる・伸びる」を実感できるように、日々の授業の積極的な改善に努めていく。 ○ 1人1台配布のタブレットPCも2年目となり、児童自身の評価は3.8と高い結果となった。学習を進めるための道具として身近なものとなり、授業での活用度も高まってきている。 ● 家庭学習については、職員と児童の評価は「概ね達成」だが、保護者の評価が2.8と少し低い結果であった。これまでのノートや学習プリントも継続しつつ、タブレットPCを活用した家庭学習のあり方について、保護者に説明していく機会が必要であると考えられる。 ● 読書については、児童・保護者ともにかなり低い結果となった。これは図書室の利用回数やくれよん号(市立移動図書館)の貸出数は多いが、校舎改築に伴う図書室の11～12月閉館、タブレットPCの家庭での活用が影響していると考えられる。今後、読書活動の推進に力を入れていきたい。	3.4 (3.0)	○ 先生方の授業を工夫している取組が伝わってきた。 ○ タブレットの導入により、多くのことを多角的に勉強できることが増えることで子どもの成長につながっていると思う。未知の世界への探求心が養われるのを期待している。 ○ タブレットの使用については、個に寄り添った学力の定着や効率化、合理化という面からメリットが大きい。 ● 読書はぜひ充実させたいが、タブレットと読書の二兎を追うのは難しいかもしれない。漢字の書き取りにも影響が出てくると思われる。 ● タブレットを使った学習をする中で、インターネットやSNSのモデル等もいっしょに学んでほしい。 ● 宿題をすぐにインターネットで調べたり大人に聞いたりしてくる。本人のためになっているか疑問である。	○ 一人1台端末のタブレットによるICTの活用と家庭学習の充実をさらに工夫改善し、学力に対する児童や保護者の意識を高めるためのアプローチの在り方について実践していく。 ○ 児童一人一人に合った指導方法についての研究を深め、児童の学力向上につながる授業改善をもっと進め、「分かる・できる・伸びる」ことを実感させていく。 ○ 読書の習慣や質の向上に取り組み、すべての教科に通じる読解力や表現力を向上させていく。また、タブレットと読書のどちらのよきも児童に実感させていく。
	当該学年の学習内容の確実な定着								
	ICT活用能力の定着								
	読書活動の推進								
【や】豊かな心の醸成	基本的な生活習慣の定着	3.0 (3.0)	3.1 (3.3)	3.5 (3.6)	3.3 (3.6)	○ きまりを守ることやだれとでも仲良くすることについては、児童・保護者とも自己評価は高かった。毎月実施しているアンケート等の継続により、児童の望ましい人間関係の醸成や早期の悩み解消に努めていきたい。 ● 自分から進んでお手伝いなど、家族や友達、学校、地域などのためになることについては保護者の自己評価がやや低かった。学級活動をはじめ様々な学習活動で計画的に指導し取り組む必要がある。 ● 気もちのよいあいさつについては、下学年の自己評価は低いが、児童全体としては3.3と概ね達成していると言える。しかし、保護者の意識が少し低い。学校でのあいさつはよいが、学校外や地域でのあいさつがもう少しと感じている保護者が多いようである。今後も具体的な場面を示して常時指導を継続していく。	3.6 (3.0)	○ 子どもたちは、地域ではこちらがあいさつをすればあいさつをする。子どもたちからだけでなく、大人からもあいさつをすることで、お互いが気もちよく人間関係を築くことができていると思う。 ○ 声は小さいが、子どもたちのあいさつがよくなった。 ○ 子どもたちは、きまりをよく守り、だれにでも優しくしていると思う。男女関係なく仲良く過ごしているように思う。 ● 以前は老人ホームなどを訪問し、ふれあい活動や仕事の手伝い等があったように思う。年配の方ともふれあうことも重要だと思う。 ● 優しさとは他者の気持ちを慮ることで、そのためには豊かな人間関係が求められる。コロナ禍でコミュニケーションが制限されているのは難しい。1日でも早く日常に戻ることを願う。	○ あいさつやきまりを守るなどの基本的な生活習慣について、定期的に自分自身を振り返らせ、自分で改善していくようする児童の育成に努める。 ○ 感染対策に努めながら、だれかや地域の人の交流をとおして、コミュニケーションの機会を増やし、豊かな人間関係を築けるようにしていく。
	望ましい人間関係の醸成								
	勤労奉仕の精神の向上								
【た】体力の向上	生活リズムの確立	3.1 (3.1)	3.2 (3.4)	3.4 (3.7)	3.5 (3.7)	○ 生活リズムについては、「概ね達成」以上が8割以上の結果となった。児童・保護者とも、ほぼ習慣化できていると言える。まだ習慣化していない児童もいるので、定期的な保健指導の徹底も必要と考える。 ○ 手洗いや衝動などの感染予防対策については、児童の意識も高い。今後、時と場に応じた行動ができるように指導していく。 ○ 体力向上については、校舎改築で運動場が約半分しか使えないが、運動場やとなりの農村公園、体育館を工夫して活用したり、児童の委員会活動主催による遊びの工夫をたりして、体力向上に努めてきた。 ● 学習中や食事中の姿勢について保護者の評価が低かった。学校生活で児童に立腰を意識させ、指導を徹底していく必要がある。	3.4 (3.0)	○ 体力向上については、先生たちがとても工夫した取組をしていることに感謝する。 ● 夜遅くまでテレビやインターネット、ゲーム等をしていると聞く。子どもたちには、早く寝る背中が伸びると話している。 ○ 生活リズムについては、親が遅くまで起きていて、子どもも遅くまで起きるのではないかと。 ● 成長期の子どもたちに、狭い空間での体力増強につながる方法を検討してほしい。 ● 体力テストで測れる体力は、自分の意思で動かせる随意筋であるが、不随意筋もあり総合的に発達することが望ましい。過剰な消費やブルーライトによる影響も考えるべきである。	○ 児童全員の早寝・早起き・朝ごはんなどの生活リズムの習慣化を目指す。児童自身に意識させて実践化を図る。 ○ 保健指導を充実させ、姿勢をはじめ健康について考えさせる機会を設け、実践に付けていく。 ○ 狭い運動場や体育館、家庭でもできる体力アップの取組を実践し、体力向上を図る。
	保健衛生習慣の定着と健康や安全に対する実践的な態度の育成								
	基礎体力の向上								
【ふ】ふるさとを愛する心の醸成	ふるさと教育の推進	2.9 (2.6)	3.3 (3.3)	-	3.5 (3.5)	○ 2年間実施できなかった11月の「乙房ふれ愛祭り」を、テーマを校舎改築に変更して実施できたことは、乙房小学校を見つめ直すことにもつながった。 ● 地域の活動への参加や授業における地域人材の活用を、感染予防対策に努めながらできることを実施していく。	3.3 (2.6)	○ ななつ星の歓迎イベントは良かったと思う。 ○ コロナ禍で例年通りの行事が今年も中止となる状況下でも、保護者を中心に、子どもたちも乙房を愛する心が育っていることをうれしく思う。 ● コロナの状況を注視しながら再開してほしい。地域と相談しながら少しずつ実施してほしい。 ● コロナ禍で希薄になっている。1日でも早く各種イベントや交流の復活を望む。 ● 馬場地区は「防災町歩き」を実施したが、小学生は10名ほどだった。今後、防災についても取り組んでほしい。	○ 保護者や地域に協力を仰ぎながら、家族や地域の人のかわりを大切に、ふるさと乙房を知り体感する活動ができるものから取り組み、乙房を愛する心を育てていく。

本校の取組	評価指標 (本校の実態)	自己評価	保護者評価	児童評価	地域の評価	自己評価コメント(成果○と課題●)	学校関係者評価	学校関係者評価コメント(成果○と課題●)	次年度に向けた改善策
		総合	総合	総合	総合				
学地域づくりに頼り強い強くなる	学校の情報発信	3.4 (3.2)	3.3 (3.4)	-	3.3 (3.8)	○ 学校だよりを地域に配布したり、ホームページを不定期に更新したりして、地域の方へ児童の様子を伝えることができた。 ○ 保護者や地域の方からいただいたご意見を受け止め、これからの学校運営に生かしていきたい。 ○ スクールガードの方をはじめ、児童の安全に関わっていただいていることに大変感謝している。	3.6 (3.4)	○ 学校だよりにより、学校の状況が分かる雰囲気の良い学校運営をされている。信頼できる学校運営だと思ふ。 ● あいさつなどのしつけは、家ですることだと思ふので、PTA総会等でPTA役員からの投げかけも大事だと思ふ。 ● 親がもっと先生を信頼することから始まるのではないかと。先生方は子どもたちのために、いろいろな取組をされていると思う。 ● 保護者の方も地域や公民館との連携があればよいと思う。 ● コロナ禍で交流がない中では、学校が何をしているか現状を深く知る機会がない。 ● コロナが収束に向かえば、大人から子どもまで地域ぐるみの催しができると思う。	○ 学校だよりや学級通信の発行やホームページ等を活用して、学校からの情報発信をさらに積極的にを行い、児童のやる気や笑顔、気もちなどを伝えていく。そして、学校の取組を知ってもらうことで、地域に信頼される学校を目指す。
	連絡体制の状況								
	相談体制(保護者)								
	相談体制(地域)								
	児童の安全に関する連携								